



この人に聞く インタビュー

今回の対談では、「現状維持、言い換えると常識」という壁を打ち破れ、「いまにしたい」と思っています。私は、現状維持が特に中小企業にとって最大の経常リスクだとずっと言ってきたんです。時間はどんどん流れるため、自分がとどまっているつもりでも世の中は

進んでいきますから、だんだんと取り残されていくという事です。それを分かっていないように分かっている、どうしていいのかわからないのが中小の現状だと思います。深山社長と会いたかったのは、やはり私からすると、F-LINEの誕生は物流業界にとってすごいインパクトだったからです。就任に当たっては重圧もあつたでしょう。

設立前から既にありまして、では、いざ会社を設立するに当たり、誰が社長をするんだというところで、全く門外漢で、むしろ物流業界に無理を言いつけられたわけですが(笑)。

物流はリアルネットワーク

物流企業の再編が活発になり、荷主の主導でサブライチチェーン(供給網)の効率化を図る動きも増えている。その先駆けとも言える「F-LINE」の初代社長で、現在は経営物流コンサルティングを行うミヤマプロジェクト(東京都渋谷区)の深山隆社長を招き、「シン・物流(物流不動産ビジネス)」を掲げるイーソーコ(遺藤文社長、港区)の大谷巖一会長を聞き手に、当時の心境やF-LINE退任後の現在の物流に対する考えを語ってもらった。

ミヤマプロジェクト社長 深山 隆氏



「緩やかな連合体」を

「この年になり、私も相談を受けることが結構増えました。『うちには若い人は来ない』との相談があり、『お子さんがいましたよ』ね。稼業を継がないんですか」と聞くと、「いや、うちの息子は……」と返します。意地悪で「子息を入

みやま・たかし 1981年に慶応義塾大学文学部を卒業後、味の素に入社。アミノバイタル部長、ベトナム味の素社長、味の素ヘルシーサブライ社長を歴任。グローバルな物流分野以外の経験を武器に、2017年F-LINE初代社長に就任、21年退任後、「消費者から逆算で物流を組み立てる事業視点」をモットーに「経営・物流コンサルタント」活動をしている。

中小零細が支える産業



イーソーコ会長 大谷 巖一氏

「当時の物流に対する印象はどうでしたか。深山 かつて間接部門と言われていた物流が、経営の要になり、戦略の柱になりつつあるというところ、主役が代わっているなど感じていました。印象としては、物流を強化することが、むしろ競争力なんだということが分かってきた中、そういうところには

らみがない素人の私が行かせていただいたのが、とても良かったです。保守本流の部署から物流部門に行くこと、大半が左遷と勘違いし、しらけてしまおうという話も以前は聞きました。一方、物流企業も反省しないといけないと感じるのは、特に中小が営業を重視していない点です。トラックの数も倉庫も限りがあり、ほどほどにや

ろうという感覚を持っていて、そこがまだまだ多い。深山 この業界に入り、分析したり、足で歩いたりして分かったのは、中小零細に支えられている産業という事です。私がよく言うのは、物流は「産業」ではなく「生業」、つまり「なまわい」という事です。町のラーメン屋さんのように、親戚一同で成り立ってしまおう。保有台数20台以下が5万社で、業界全体の8割以上という事は、

24年問題、正しく発信

のですが、例えば輸送テストをして、タンポールの強度など問題ないかとか、そういう「運搬・保管適性」を物流企業から発信する。メーカーにとっては商品開発の価値になります。別の話になりますが、最近増えているフードデリバリーで、ギクワーカと称する自転車に乗った人は社会保険に入ってます

深山 頑張るところと稼げる「憧れの職業」にしていくべきです。原資をためられる人は人生設計をします。結婚したら子どもを持つて家を買おうといった人生設計をするためには元手が必要じゃないですか。こうした稼げる職業、業界を抱えていくことが、業界が抱える本質的課題であり、結果的に広い意味で社会貢献

ビジネスだと分かったら、必ずしも一緒の会社になるという意味ではなく、緩やかな連合体として取り組む必要があります。その考えは大賛成です。私としては更に、付加価値が重要だと思っています。イーソーコグループの物流不動産ビジネスで言えば、物流に不動産を加えるという点を指しています。深山 確かに、新しい商品を開発する、それはもちろんメーカーの仕事で良い

ル、地域の輸配送、拠点間をつなぐ中長距離幹線と区分して問題の存在を明示し、その中でも幹線輸送が最大の課題という正しいメッセージを打たないと、世の中の理解を得られません。すなわち、世論を巻き込んだ本質的な解決ができないという事になります。深山 21年にF-LINEの社長を退任し、物流に加え、食品、医薬品化成品、海外などの今までの知見や経験などを生かし、物流業界のみならずお世話になった様々な業界にご感謝しをできないかなと思ひ、21年末にミヤマプロジェクトを立ち上げました。物流分野に対しては、三つのテーマを持ち、一つは人財問題、そして健康と安全、それから新しいテクノロジーですね。このテーマを踏まえて業界各社にどうお手伝いができるか模索しています。――ありがたいごさいました。(土屋太郎が担当しました)

物流部門を経由して社長になるという荷主企業の事例が増えた時、時代は変わるんじゃないですか。深山 そのあたりは既に出てきています。物流はコストセンターではなく、プロフィットセンターという認識は、この5年、10年で製造業の中でますます広がっていくと思います。――今はどういった仕事をされているんですか。深山 21年にF-LINEの社長を退任し、物流に加えて、食品、医薬品化成品、海外などの今までの知見や経験などを生かし、物流業界のみならずお世話になった様々な業界にご感謝しをできないかなと思ひ、21年末にミヤマプロジェクトを立ち上げました。物流分野に対しては、三つのテーマを持ち、一つは人財問題、そして健康と安全、それから新しいテクノロジーですね。このテーマを踏まえて業界各社にどうお手伝いができるか模索しています。――ありがたいごさいました。(土屋太郎が担当しました)